The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	大型計算機センターに何を求めるか
Author(s)	山中, 卓
Citation	大阪大学大型計算機センターニュース. 1998, 107, p. 1-1
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/66245
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

巻頭言

大型計算機センターに何を求めるか

教育広報委員会 理学・医学・健康体育系グループ

一昔、と言っても考えると十数年前になるので学生の人たちには笑われるかもしれないが、世の中には汎用の大型計算機というものがあった。当時は DEC の VAX などのミニコンピュータやパソコンなどもあったが、ちょっと大がかりなまじめな計算やデータ処理をしようとすると、この大型計算機に頼らざるを得なかった。CPU のパワーでいうと、今のパソコンの数分の一程度だろう。研究所にあったこうした計算機を百人くらいでありがたく使わせてもらっていた。ところが、世の中に RISC チップを載せたワークステーションなるものが現れ、あっという間に大型計算機の能力を追い越してしまった。さらに、いまやパソコンさえもその速いワークステーションの能力に追いつかんとしている。

こうした時代の流れをくみ、阪大の大型計算機センターはいち早く汎用機を捨て、ベクトル計算を得意とするスーパーコンピュータに照準を合わせ、対応してきた。ではこれから２１世紀に向けて、大型計算機センターはさらにどのように変革していけばよいのだろうか。

確かに、これからますますコンピュータは速く、安くなる。しかし、それにも増して人間の欲望（研究意欲）は留まるところを知らず、今まで考えもしなかったような大型の計算をしたくなる、前よりも何桁も多いデータを処理しようとする。その上、自分の計算をするのに待つのはいやだ、お金を払うのはいやだとくる。また、ワークステーションによる分散処理は確かに研究できる境界を広げたが、逆にシステム管理などというお仕事までも、本来研究に専念すべき学生や助手の人々に分散したことも事実である。

こうした背景を受けて、「教育広報」という趣旨からは少し異例ではあるが、「大型計算機センターに何を求めるか」というテーマで特集を組んだ。そして、広く意見を集めるために、現在センターを使っている人だけではなく、センターを使っていない人にまで広げて執筆者を選び、自由に記事を書いていただいた。執筆者の割合は、決して研究者の意見分布に比例しているわけではない。しかし、様々な意見、要望があり、読んでいただくと、人間の欲望の深さのみならず、その幅広さも分かっていただけると思う。こうした特集がきっかけとなり、もっと様々な意見が出てきて、その中から将来の「大型計算機センター」の進むべき進路が見えてくればと願う次第である。

なお、この特集に関してご意見、ご感想のある方は、 kyuodou@center.osaka-u.ac.jp まで E-mail でどしどしお寄せください。

（大阪大学大学院理学研究科 助教授 山中 卓）